

●個別学習 ■児童生徒自主学習型

実践タイトル PC教材を使つての調べ学習

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

PC

・個々の調べ学習の課題に応じた個別学習（ひとり調べ）をする。

PC教材

・個々の学習課題に応じた、PC教材のアニメーション、写真や動画コンテンツなどから実感した調べ学習にさせる。

参考にしてほしいポイント

- ・導入で、「うなぎ」と「まだい」の写真を電子黒板に拡大提示し、学習への意欲付けとする。
- ・PC教材の資料に限定した調べ学習にすることで、必要最小限の調べ学習とすることができる。
- ・さらに詳しく調べたい場合はリンク集を作成し、多くの情報に飲み込まれないようにしたい。
- ・動画を多く視聴することができ、写真だけよりも具体的で実感を伴った理解をさせることができる。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入	0 ・児童を電子黒板の前に集め、学習への意欲付けをするために、電子黒板に「うなぎ」と「まだい」の写真を拡大提示する。 5 ・うなぎは養殖され、まだいは栽培されていることを知る。 ・学習課題を知る。	・電子黒板 ・学習課題を書いたスライド（プレゼンテーションソフトウェア）（写真1）
展開	5 ・うなぎの養殖漁業、まだいの栽培漁業のどちらかについて詳しく調べるために、PC教材を使つて調べ学習をする。 35 ・驚いたことや分かったことを、PC教材のツールを使つて書き込む。 ・書き込んだことを発表する。	・PC（各自で活用） ・PC教材（写真2） ・PC教材のツールを利用して児童が書き込んだスライド（写真3）
まとめ	35 ・養殖漁業と栽培漁業について、分かったことを各自でノートに自分の言葉で簡潔にまとめる。 45 ・それぞれの育て方について、2名ずつ発表する。	



写真1: 電子黒板に拡大提示しての興味付け



写真2: PC教材のツールで分かったことの画面への書き込み



写真3: 書き込んだことを発表し分かったことの共有

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・写真と動画やアニメーション資料から、養殖漁業や栽培漁業について実感を伴った理解をすることにつながった。
- ・PC教材の画面上に書き込みをし、それを使った発表をし、意欲的に学習に取り組めた。

活用効果

評価の観点	・社会的事象についての知識・理解	具体的変容	・資料集の写真や図ではなく、動画やアニメーション資料などから、児童にとって身近ではない育てる漁業について、実感を伴った理解をすることができた。
-------	------------------	-------	---

実践の手応え

- ・児童は、主体的に調べ学習を進めることができた。PC教材が学習内容に即して制作されており、児童が簡潔に理解することができた。